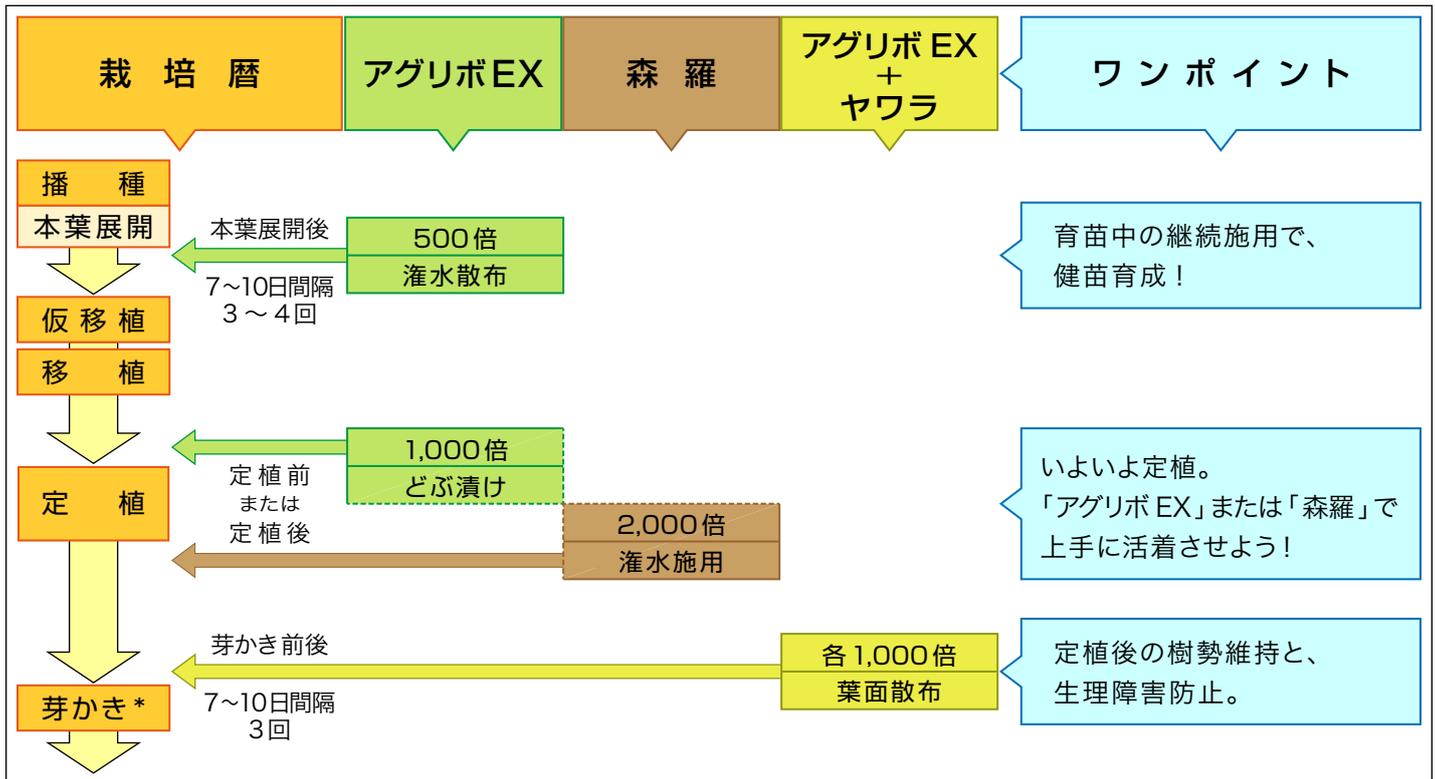


セルリー (セロリ)

強健な苗作りと、生育後半の緩やかな生育誘導

セルリーは、収穫までの生育期間が長いので、各生育段階できめ細やかな生育管理が必要になります。例えば、本圃生育後半で急激に肥大させようとすると“株割れ”（分球）や微量要素欠乏の原因となります。まず、生育初期に「アグリボ」剤で強健で根張りの良い（吸肥力・吸水力のある）苗を育成し、定植後は様子を見ながら適切な施肥・水分管理を心がけて下さい。ただし、生育中期までは勢いを落とさないように、また生理障害を起こさないよう「アグリボ EX」や「ヤワラ」を上手く活用して、生育を誘導して下さい。



* 「アグリボ EX」の生育中期以降の使用は、肥大が進み過ぎ“株割れ”を起こす恐れがあります。

硝酸態窒素の低減

セルリーは、もともと実際の吸肥力が弱く、土壌中で高濃度の状態でないと肥料成分を良く吸収できない性質を持つため、どうしても多肥栽培になりがちです。生食が主な用途になりますので、多肥による硝酸態窒素増加を抑えるため、生育期中期までの「アグリボ EX」や「ヤワラ」の散布が有効です。（小松菜での試験例あり）

多機能性肥料「ヤワラ」の活用

- カルシウム欠乏症の芯腐れを防ぐため、「ヤワラ」を心葉を中心に予防散布して下さい。
- 作型によっては、生育初期（12～13葉期）の高温時の乾燥・収穫期の寒害による品質低下が問題になります。トレハロース入りの「ヤワラ」を500倍に希釈して散布し、茎葉の乾燥や低温障害を軽減して下さい。

天候不順が予想される場合、「アグリボ EX」の代わりに“光触媒”入り「アグリボ3」の3,000倍希釈液の散布が有効です。

「アグリボ EX」や「アグリボ3」を葉面散布する際、“展着促進材”（界面活性剤・トレハロース）入り「ヤワラ」を1,000倍希釈相当で加用すると、散布液の展着性向上に効果的です。

ご質問 フリーダイヤル イーハナ イーヤサイ アグリボ
ご相談 **0120-187-183** 相談室

AGREVO

<http://www.agrevo.co.jp/>

株式会社アグリボ 〒240-0035 神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町528
TEL:045-352-5327 FAX:045-352-5328